

平成28年度 事業報告

1. 概要

国では、少子高齢化の進展による社会経済全般への影響を見据えて、誰もが活躍できる「一億総活躍社会」の実現に向けた取組が進められています。

当センターでは、「自主・自立」「共働・共助」のシルバー理念のもと、健康で働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を生かし、社会の支え手として地域社会に貢献できる事業の推進に努めており、平成28年度におきましても「第二次中期計画」の基本方針であります「事業の拡充」「機能の強化」「財政基盤の強化」に沿った事業を実施してまいりました。

基本方針の「事業の拡充」に向けた取組みでは、「会員の増強と就業機会の拡大」、「公益法人にふさわしい事業展開」、そしてシルバーの認知度を高めるための「普及啓発活動」を重点課題とし、事業の推進にあたっては、専門委員会や地域班等で行ってきた活動の見える化をさらに推進し、会員参加型による会員主導のセンター運営を意識した事業展開を図ってまいりました。

特に今年度は、地域に根ざした新たな取組みとして、地区委員、地域班長を中心に会員主導による地区単位で開催した地域講座「シルバーエイジの生きがいづくり」や、「太田ふるさとまつり」などの地域行事をはじめ、地域の高齢者を対象に関係団体が企画する事業にも積極的に参画するなど、地域における様々な機会を捉えてシルバー人材センターの「普及啓発」と「会員の増強」に努めました。

また、独自事業として空き店舗を活用して開設した「シルバーショップクローバー」は、テレビ番組にも取り上げられるなど、シルバー人材センターの広告塔としての役割を担っております。

一方、「公益法人にふさわしい事業展開」では、介護保険制度の改正にともない10月から社会福祉協議会との協同でスタートした「訪問型サービスA」や市が実施する「ひとり暮らし高齢者等日常生活支援事業」の受託など、地域福祉に貢献する事業にも参入し、事業の拡充と高齢者福祉の増進を図りました。

「機能の強化」に向けた取組みでは、他センターから講師を招いての接遇研修会や、安全就業に繋がる刈払機の取扱い研修会、役員・班長合同視察研修会の開催など、各専門委員会が中心となって各所管事項の課題解決に向けて取組みました。

事業実績につきましては、年度末の会員数は1,295人で前年度より42人増となり、第二次中期計画の年間増員目標の49人には及びませんでした。

契約金額では、請負・委任の民間受注が順調に伸びており、公共を含む請負・委任の対前年比は3,600万円の増となり、一般労働者派遣事業も平成27年9月に3年問題が解消されましたので、契約金額は対前年比2,700万円増の1.7倍と大きく伸びてきております。

その結果、受託事業全体では、前年度の実績を12.3%上回る、総額で5億7,700万円と好調で、第二次中期計画の数値目標を大きく上回る実績を残すことができました。

高齢者を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、シルバーも労働力人口の減少による新たな分野での事業展開が求められており、高齢者が地域の支え手として活動・活躍ができる場を創出していかなければならないと考えております。以下、事業の具体的な実施状況について報告します。

2. 個別事業の実施

(1) 事業の拡充に向けて

① 普及啓発と会員の増強

◎会員による取組みとして、地域班を通じて各家庭へのチラシの配布や、各地区でのボランティア活動、地域行事への参加をはじめ、春・秋の奉仕活動では清掃奉仕に合わせて駅前等での街頭啓発にも取り組みました。特に、「太田ふるさとまつり」では、シルバーとして会場設営から参画することができ、地元会員にも支えられ、シルバー事業の周知を図ることができました。また、独自事業として会員が運営する「シルバーショップ」は、地域に根ざしたアンテナショップとして、マスコミにも取り上げられるなどシルバー事業の発信にも努めました。

◎前年度に続き、当センターで開催した「シルバーまつり」は、市の「さくらまつり」と時期を同じくして、平成29年4月1日・2日の両日に開催しました。「シルバーまつり」は、センター内での会員作品展や近隣幼稚園児の絵画作品、シルバー相談窓口の開設をはじめ、屋外では会員のステージ発表や多彩なイベントを企画実施することができ、シニアから子どもまで沢山のの方々に来場いただき、シルバー事業をPRすることができました。

◎今年度は、新たに地区委員会が中心となり、各地域班長の協力を得ながら市内5地区で開催された地域講座「シルバーエイジの生きがいづくり」では、市の協力を得て「認知症予防大作戦」や各地区で斬新なアイデアを織り交ぜて、シルバー事業の普及啓発に努めました。

◎一方、会員による会員紹介運動や、定期的な入会説明会やシルバー相談会の実施は、シルバーの多彩な行事や活動と相俟って、着実に会員の獲得に繋がっており、地道な取組みではありますが、活動の定着と浸透を図ることができました。

② 就業機会の拡大

◎会員が自主的に仕事を開拓する「一会員一仕事紹介運動」は、3年間継続してきた活動が報われ、受託契約に繋げることができました。会員による地道な活動ではありますが、会員ひとり一人がシルバーの広告塔として取組を継続しました。

◎27年度に実施した、発注者向けに実施したアンケート結果の活用により、福祉車両の運転業務など要望の多い業務に関して、先進事例を参考に、会員の運転技術の確認や安全対策を講じるなど、これまで受託を見送っていた業種についても積極的に取り組みを進め、会員の就業機会の確保に努めました。

◎就業開拓委員会では、これまで蓄積した事業所データベースを基に、各委員が担当地域の事業所へ積極的に訪問活動を展開し、会員の就業先確保とシルバーのPRに努め、新規発注者の開拓や既存発注者に対する契約後のフォロー、従事会員の情報収集などに努めました。

③ 安全・適正就業の推進

◎安全適正就業委員会が中心となり、就業会員を事故から守るための「安全就業基準の遵守違反要綱」や事故が発生した場合や安全基準の違反者に対する「事故審査委員会」設置要綱が理事会において承認され、この要綱に基づき、就業中の不注意により発生している賠償事故の抑制や会員の安全意識の向上を図るため、29年度の運用を目指して引き続き関係基準等の整備を進めます。

◎事故の発生が多くみられる屋外作業に対して、作業前の準備点検での安全対策の徹底や作業現場への定例パトロールに加え、不定期で抜打ちパトロールを実施するなど、巡回頻度を増やし、就業会員への注意喚起と安全対策の強化に努めました。特に、刈払機による飛散事故は、高額賠償に繋がる事から、事故ゼロの実績のある近隣センターへの視察研修や刈払機の取扱研修会を実施しました。

◎就業途上で多発している自転車事故をはじめ、就業中の事故の発生状況や事故内容については、年4回発行の機関紙により会員に周知するとともに、事故防止に備えて交通安全講習会や救命講習会の開催回数を増やすなど、会員の安全意識の向上に努めました。

◎適正就業では、特に労働者派遣事業において派遣先の信用信頼を得るための教育訓練をレポート提出方式で実施しました。また、運転業務に従事する派遣労働会員に対しては、安全意識と業務適正を判断するため派遣元が実施する高齢者活躍人材育成事業を利用した安全運転講習の受講を義務付け業務上起こり得るリスクの抑制に努めました。

④公益法人にふさわしい事業展開

◎市が実施する「ひとり暮らし高齢者等日常生活支援事業」をはじめ、介護保険制度の改正にともなう介護予防・生活支援サービスとして創設された「訪問型サービスA」事業にも10月から社会福祉協議会との協同で参入し、地域で日常生活支援を必要とする高齢者へのサービス提供を推進しました。

◎今年度は、第二次中期計画(26年から30年の5ヵ年計画)の中間年にあたり、副理事長を初め各専門委員会、地区委員会の代表で構成した中期計画推進委員会を設置し、公益法人としての適切な運営や計画に掲げる事業の進捗状況について点検・評価を行うとともに、中間評価の概要版を作成し全会員に配布しました。

⑤福祉・家事援助事業の推進

◎シルバーでは、地域密着型事業として、日常生活での簡易な軽作業を安価で引き受けるワンコインサービスをはじめ、福祉・家事援助事業による高齢者等への日常生活支援事業の推進には、関係施設や団体へのチラシ配布など積極的なPR活動と、従事する会員の丁寧な仕事ぶりが浸透し、着実に利用実績が増えました。

◎福祉・家事業務を担う拠点でもあるシルバーサポートセンターでは、福祉・家事推進委員会が主となり、福祉・家事援助事業の拡大のために就業に関することや仕事の依頼等に対応する「お困りごと相談所」を新たに開設し、サービス利用者や従事会員の相談窓口として、事業の円滑な推進に努めました。

⑥独自事業の拡充

◎女性会員の就業機会の拡大を担う「シルバーショップ」では、昼食だけでなく、更なる事業展開を目指し、喫茶部門の拡大に繋がる市のスイーツフェアにも参画するなど意欲的な活動を展開し、シルバーショップの事業のPR等に努めました。また、ショップ独自でも、季節に応じたメニューの提供やオープン2周年の記念イベントを開催するなど、集客と収益の増に努めました。

◎高齢者パソコン教室は、初心者や高齢者にも分かりやすいと好評で、利用するパソコンのアップグレードや受講テキストの開発など、事業に携わる会員による研究と工夫がなされ、受講者拡大を図るための宣伝用の目立つのぼりの作成や、教室外の活動として自宅訪問による個別指導も充実させるなど、事業収益に繋がる取り組みを推進

しました。

(2) 機能の強化に向けて

① シルバー理念の浸透

◎センター運営の基本理念である「自主・自立・共働・共助」について、役員、会員、職員が共通認識の基に理解を深め、会員相互のコミュニケーションや連帯意識の高揚を図るため、センター行事、地域活動、班会議等への理事、地区委員、職員の参加をはじめ、機関紙やチラシなどの会員向けの配布物等、あらゆる機会を通じてシルバー理念の周知に努めました。また、新たな取り組みとして、会員によるセンター運営として、次年度の会員更新を地域別に行い、地域担当理事、地区委員が会員との面談を実施しました。

② 会員主導による運営の推進

◎理事会を中心に 5 つの専門委員会において、役員(理事)、役職会員(地区委員、班長)が連携し、事業計画や中期計画に基づく所管事項の企画、立案、研究など、委員や会員が主体的・自主的に取り組むことによる運営と活動を展開しました。

◎受託事業に関しては、一部の業種では就業会員の提案により、会員が従事する業務についての意見交換会が行われ、就業に携わる会員自らが円滑な就業の推進を図るための改善策など、意見交換を行い、円滑な就業履行に繋げるなど意欲的な活動を展開しました。

③ 会員の就業能力の向上

◎就業開拓委員会が主催する接遇研修会は、他センターの就業会員による実践を通じた内容で、昨年を上回る 329 名(昨年 237 名)の会員が受講し、改めて接遇の重要性を学び資質の向上を図りました。また、適正な機材の使用法の習得と後継者の育成を兼ねた刈払機講習会の開催や、福祉家事業務拡大に繋がる調理業務講習に大シ協が実施する高齢者活躍人材育成事業を活用するなど、会員の就業能力の向上に努めました。

④ 関係機関・団体等との連携

◎当センターが抱える課題や今後展開する新規事業などに対して、先進的に取り組

んでいるセンターへの視察研修を行い、事業を推進するうえでの課題や方策などの情報収集や情報共有を図り、今後の先進センターとの連携に繋げることができました。

また、新総合事業「訪問型サービスA」においては、社会福祉協議会との協同事業として参入することができました。高齢者団体に運営する「シニアプラザいばらき」では、運営団体との多彩な事業の推進により連携強化を図ることができました。

⑤事務局機能の充実・強化

◎公益法人の職員として資質向上を図るため、外部セミナー専門講師を招いての職員研修会を実施するなど、日々遂行する業務への意識改革に努めました。また、適正ガイドラインに沿う受託事業における専門知識と適正運営の考え方を習得するための講習会に全職員が出席し、シルバー受託事業の基礎を改めて再認識し円滑な就業提供に努めました。

(3) 財政基盤の強化に向けて

①補助金の確保

◎少子高齢化の中で、シルバー人材センターが担う社会的役割について市の理解を求め、引き続きセンターの運営に対して支援を受けることができました。また、国からのセンター運営に対する補助や労働者派遣事業の推進にともなう補助金確保にも意欲的に取り組みました。

②自主財源の確保

◎受託事業の拡大は自主財源の確保につながり、とりわけ高齢者福祉を推進する市と連携した事業展開は有効であることから、新総合事業をはじめ、シニアプラザの運営管理など、関係する団体と連携を深めながら、受託事業の拡大を図り財源の確保に努めました。

③経費の節減と効率的な予算執行

◎センター事務所の維持・管理をはじめ、事業全般にわたって、省エネやエコオフィスを意識し、光熱水費や消耗品、印刷製本費など日常的に支出の抑制に努めるなど、経費の節減と無駄を無くし効率的な予算執行に努めました。